

平成 29 年度 第 1 回 学校評議員会 議事録

日 時 平成 29 年 5 月 31 日 (水) 15 : 30 ~

場 所 本校小会議室

参加者 評議員 井 上 美奈子 様 [健康科学大学教授]
太 田 敏 夫 様 [平成 27 年度本校 P T A 会長]
宮 下 俐 様 [富士吉田市立下吉田中学校長]
正 木 啓 子 様 [山角会富士吉田診療所心理室カウンセラー]
前 田 市 郎 様 [(株)前田源商店 代表取締役]
職 員 校長・事務長・第一教頭・第二教頭・広報部職員(記録)

- 1 校長挨拶
- 2 委嘱状交付
- 3 自己紹介
- 4 学校評議員の活動に関する説明
 - (1)学校評議員設置要綱について
 - (2)昨年度の活動報告について
 - (3)今年度の年間計画について
- 5 本校の概要説明
 - (1)教育目標等について
 - ・伝統を継承しつつ、生徒の実態に即して、文武両道の文言をあえて使わずとも、生徒の生き方が結果としてそうなる学校を目指したい。
 - ・吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高 G P）を身に付ける教育方針を打ち出した。
 - ・すべての教育活動を通して、これらの力を身につけたり達成させたりしていくことを目標としている。
 - ・本年度の教育目標について、ベネッセビュー21 に掲載予定
 - (2)E S D パスポートの活用について
 - ・ボランティア精神を養う。
 - ・日本ユネスコ協会の認定書が取得できる。
ボランティアを行う上での励みにしてほしい。
 - (3)「やрмаいか」の精神（本校の初代校長本多先生のことば）
 - ・根本は「とにかくやってみよう」
 - ・いろいろなことにチャレンジして試みる大切である。（失敗を恐れない）
 - (4)各学年の目標について
 - ・評議員
 - Q : 今後、教育目標は変わらないか。
 - A : この数年は変えずにやっていく。
 - ・評議員
 - 「やрмаいか」は浜松の方言でとても好きな言葉である。
 - 初心にかえる上では、大変重要であると思う。
 - (5)学校の概要について
 - ・学校組織について

- ・高校入試の状況
ここ 10 年の推移、前期募集・後期募集・居住地について
- ・進路状況
「Career Plan」により、将来を見据えた指導をしている。

(6)学校評価について

- ・生徒による評価（年 2 回）、保護者による評価（年 1 回）、教職員による評価（年 2 回）を実施している。
- ・上記の評価を踏まえて、第 3 回学校評議員会において評議員の方々から意見をお伺いする。

(7)生徒指導について

- ・落ち着いた雰囲気での学習には取り組んでいるが、見えないところで心に不安を抱えているところがあるかもしれないことを念頭に指導を進めていく。
- ・生徒の登下校時の送迎について
- ・マナーアップ運動は、PTA 役員とともに取り組んでいる。

(8)生徒会活動について

- ・新入生の加入率の低さは、入学後すぐにインフルエンザによる学年閉鎖も一因かと思われる。
- ・部活動の課題について

(9)蒼風祭（学園祭）について

- ・ミュージカルが特徴的で、合唱も力を入れている。
- ・評議員
Q：理数科の生徒は、部活への加入状況はどうか。
A：各学年とも 20 名近くの生徒が入部している。

6 懇 談

評議員

「日経新聞連載中の『私の履歴書』において、ディズニーランド設立にあたっての緻密な計画が練られていたとの記事を読んだ。事前にどのように計画をたてるかが大事であり、本校が新たに提示した「吉高 GP」が、今後の吉田高校の成果となってくれればいいと感じた」

「若いころには、高校 3 年間はたいしたことないって思っていたが、今になってみるとこの 3 年間でとても大切だと感じるようになった」

「高校 3 年間でとても大切で、社会人になってから取り返すのはなかなか困難である。その点を、是非とも生徒に伝え、社会に出てからの生き方の支えになるように指導してほしい」

評議員

「大学でもディプロマポリシーがあるが、教職員や学生に浸透していないところがある」

「今年からは、シラバスに反映していくことになったが、今回拝見した『吉高 GP』と相通ずるところがあると感じた」

評議員

「『吉高 GP』を育てるには、授業や行事において確認が必要であろうと思うが、どのようにしているか」

職 員

「たとえば、職員会議で『蒼風祭』において先生方が生徒に身に付けさせたい力は何ですかという問いを投げかけた」

「校長からのトップダウンではなく、それを一人ひとりの教員に考えながら生徒指導にあたってほしいと考えている」

「教員も『吉高 GP』を意識するいい機会になる」

「是非とも、いい意味でプレッシャーを掛けていただきたい」

職員

「目標としての『吉高 GP』を、個々の生徒やそれぞれの授業や行事を実施して行くにあたり意識してほしい」

職員

「学力だけに偏ると苦しくなるので、それを改善していきたいと考える」

評議員

「評価が難しいのではないか」

職員

「客観的な評価がこれからの課題である」

職員

「発信が苦手な生徒、自己肯定力が弱い生徒にもそれぞれが自分なりの目標を目指させることを指導していきたい」

評議員

「吉田高校での数年を経て感じるのですが、生徒の多くは、中学校の時はそれなりに勉強ができる生徒でいた」

「でも、いざ高校に入ると基準が勉強だけになってしまっているのが、挫折感を味わってしまう」

「せっかく新たに [目標となるポリシー] を掲げたので、吉田高校の方向性を中学生にも浸透させて行くことが大切」

「勉強だけではなく、多様性をもたせた指導はとても大切である」

職員

「学校のホームページ等を通じて、できる限り各種の情報を発信している」
(吉高ブログを紹介)

各種行事だけに留まらず、日常の風景を発信している。

一部ボランティアについての説明

評議員

「高校時代に、仲間といろいろと議論したことがあったが、そのときに相手の立場を考えながら議論してきた」

「社会に出てから、仕事上でも発信力は当然必要であり、他者の立場に立って考えることの大切さを感じた」

「吉高の指導がそう感じさせるものであってほしい」

職員

「私も本校卒業生であるが、学校が大きく変わりおとなしく真面目な生徒が多くなったように感じる」

「1年生は、まだまだこれからがんばれるのではないかと感じることも多い」

評議員

「中学校でも同様に感じる」

職員

「土日でも登校して学習しているが、そんな中で戸惑うことはないのかと心配なこともある」